

平成29年6月15日

社会福祉法人 健祥会
理事長 中村太一 殿

徳島健祥会福祉専門学校
学校関係者評価委員会
委員長 加藤 真介

学校関係者評価委員会報告

1. 学校関係者評価委員

加藤 真介 (徳島大学病院リハビリテーション部長)

田村 修司 (徳島県介護福祉士会会長)

阿部美千代 (徳島健祥会福祉専門学校後援会会長)

藤原 慶治 (徳島健祥会福祉専門学校同窓会会長)

武田 英二 (校長)

青木 隆史 (主管)

吉野 勝裕 (副主管)

2. 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 平成28年10月7日(金) 13時30分～15時20分

徳島健祥会福祉専門学校 本館4階 演習室1

第2回委員会 平成29年3月23日(木) 13時30分～15時20分

徳島健祥会福祉専門学校 本館4階 演習室1

3. 学校関係者評価委員会報告

別紙のとおり

評価項目（１）教育理念・目標・人材育成像について

意見：３つのポリシーが定められているが、募集要項等にまだ掲載されていない。

説明：平成３０年度入学生用の学校案内より、学校のミッションから各学科の３つのポリシーを載せることとしている。２９年度用には間に合わなかった。

質疑：人材の長期的な育成について改善点に書かれているが、卒後教育も含めて、どのように人材育成を進めていくのか。

応答：同窓会活動の一環として各学科で、年に数回、勉強会を実施している。職場での情報交換や経験を語り合っ、現場で必要とされる知識や技術の向上を図っている。法人にリハビリテーション部という組織があつて、理学療法学科と作業療法学科の卒業生を対象とした研修を行っている。

評価項目（２）学校運営について

質疑：課題に出ている職務分掌について、一部の教員に役割が過多になっている。実際にやっていけるものか疑問に思った。

応答：分掌に重なりもある。また、時期により、教員に負担過重が発生することもあるが、なんとか実行できている。ご指摘のとおりで、改善する余地がある。名前がたくさん載っているが、業務のジャンルとしては系統的に捉えられている。

意見：１月にグループの年訓が発表されて、４月の新年度の運営方針に反映するというのは、時間的に非常にタイトかなと思う。ある程度長期、数年間の方針が打ち出されないと、運営方針、教員の採用、強化もなかなか反映しづらい。長期的な戦略が盛り込まれているのだが紙面にはない。そのあたりを前に出すべきである。

応答：ビジョン、ミッション、人材育成方針を含む「理念体系」を策定しており、長期的展望に基づいて対応している。

評価項目（３）教育活動について

質疑：来年度から介護福祉士の国家試験が介護福祉学科の学生も対象になる。従来だと２年間の履修で資格をもらえるのが魅力であったが、試験を義務づけると志願者がさらに減少することを危惧する。だからこそ１００％に近い合格率を出すことも学校の使命である。そういう意味で今後の方針はあるか。

応答：国家試験対策の年間スケジュールを計画し、学生に説明している。

模擬試験及び専門領域に応じて国試対策の指導を計画している。

質疑：今春卒業した介護福祉学科の学生が国試を受験していたら、どのくらいの合格率になっていたのか。

応答：２年生が１年生の３月に、国試そのものを受けさせると、８５％の合格率であった。あとの１５％はかなり厳しい状況であり、重点的に教育していきたい。それが最終どこまで伸びるかということである。

質疑：施設職員を経験し、教員になり、たとえば10年経ち、その後現場に戻るとき、研修をするということはあったのか。また、そういう計画はあるのか。

応答：教員の臨床力が必要で、現場での研修が必要である。職能団体での活動及び週1回の研修を通して新しい知識や技術を習得させる。

意見：関係者評価の報告書の作成の仕方だが、全学科共通の事柄と学科独自の事柄を分けてわかりやすく見やすくしてほしい。実習関係の内容が違うので、学科毎のもの必要ではないか。

応答：検討する。

評価項目（4）学生指導等について

質疑：それぞれの職種に向いていない学生がいて、その指導はむずかしく苦勞していると思うが、どうしているか。

応答：一番はご家族との面談を通して理解をもらうことである。例えば、国試は合格できるが、コミュニケーションに難がある場合は、状況に応じて就職を指導している。本人の意志で別の学科へ入学し直す学生がいた。

質疑：実習の評価基準は実習先に提示されているか。

応答：実習の手引きに評価項目を明示している。5段階評価になっている。

意見：学校敷地内禁煙、健康教育の取組を高く評価する。
学生保護者が気安く相談できる体制があると思う。

評価基準（5）特別活動等について

質疑：養成校の対抗戦などがあるか。

応答：徳島市学生生徒補導連絡協議会主催の球技大会が毎年あり、男女共出場している。そのための練習はしていて、バレーボールと卓球で成果を出している。クラブ活動としての恒常的な活動はしていない。理学療法学科及び作業療法学科は4年で履修する内容を3年のタイトな時間割で学習させているので、クラブ活動はできにくいのが現状である。

評価項目（6）学修成果について

質疑：退学の時期はどこが多いか。

応答：前期試験終了後と年度末である。

質疑：実際に職業のことがわからずに入学してくることがあると思うが、入学後まもなく、上の学年の実習に1日でも同行させると、今後の学習に身が入りやすいと考える。

応答：理学療法学科と作業療法学科は、1年時は7月に基礎実習、11月にも行く。実習については、どの学科も早期に見学実習を実施し、職業観の育成に

努めている。

意見：以前、国家資格合格率が高く、県内で注目されていた。国家試験サポート体制はできているが、もう少し強化してほしい。

国家試験合格率・資格取得率が高くなることが学生募集につながると思う。

評価項目（7）学生支援について

質疑：我々の大学でも、実習の条件として予防接種を義務づけているが、予防接種は具体的に何をしているか。

応答：基本的には大学と同じである。抗体検査も実施している。

質疑：実習でトラブルが出たときに、学生が学校に報告する義務を持たせているか。

応答：担任に実習状況を週1回報告させている。体調、困ったこと等は担任あるいは学科教員に報告させている。インフルエンザ等で実習できない期間がある。予防接種については病院で対応している。

評価項目（8）教育環境について

質疑：実習施設の設備基準は設けているか。

応答：厚生労働省の実習施設設備基準をクリアしているところに実習を依頼している。施設面だけでなく実習指導者の条件、臨床経験年数等も踏まえて人的な面も考慮している。

質疑：指導者研修を受けた人を実習指導者にしているのか。

応答：経験年数の条件をクリアした指導者にお願いしている。

意見：防災リハを含めて防災対策を考えてほしい。

質疑：介護ロボットが施設に導入されていくが、学校は授業で扱うのか。

応答：ロボット事業が県に認められたので、レンタルして現場で介護福祉士を支援する。また、学生の教育にも活用したい。高価であり自力で買うのはむずかしい。

意見：ロボットを活用する授業は、学生のモチベーションを上げるのには非常によいが、ただそれで時間を取られるのはどうなのかと思う。

意見：介護施設・保育施設がグループ内にあり、他の大学や専門学校に比べると学生は教育環境に恵まれている。

評価項目（9）学生の受入れ募集について

質疑：学生の男女比は怎么样了いるか

応答：7：3で男子が多い。他校では逆の比率もあるので、女子の入学に積極的に取り組みたい。

質疑：遠隔地通学支援助成金の額はどのくらいか。

応答：年間10万円

質疑：近隣の学生アパートは足りているか。

応答：十分ある。

質疑：オープンキャンパスの参加者数の伸び悩みに関して、高校生が該当資格の職業に
どういう意識をもっているのか。ネガティブなイメージがあるのか。資格に対する
理解があるのか。学校として広報ができているのか。

応答：学生の学力は多様化している。リハビリ職に対する希望は18歳人口の減少以上
に減少している。

意見：高校生の就職希望は単一ではなく多様であり、保護者や周りの人の意見に影響さ
れる。保護者世代への資格の広報が必要ではないか。学校単位の取り組みだけで
なく関連職能団体の仕事でもある。

意見：介護現場を離職し、理学あるいは作業療法士の資格を取りリハビリ職に就く事例
がよく見られる時期があった。しかし、今は介護から看護へと転職する事例がみ
られる。社会人は高校生より職業意識が高く、身銭を削って学費を払い切羽詰ま
った思いで学習している。それが成績に表れているので、社会人をターゲットに
広報するべきだ。

意見：大学と比較して、学納金が安いのは魅力的である。国試合格率を上げることによ
り医療・福祉をめざす学生・保護者にとって魅力的な学校にしてほしい。また、
就職率100%をもっと広告に大きく使用すべきである。

意見：遠隔地生徒のために学食の充実と住居の斡旋は親として心配である。
福祉の仕事をめざしている者にとって食の大切さを指導してほしい。

評価項目（10）財務について

質疑：募集定員の充足率はどうか。

応答：理学療法学科は定員を満たしているが、作業療法学科と介護福祉学科の募集に苦
慮している。保育福祉学科から2年制の保育学科へニーズが変わってきている。

評価項目（11）法令等の遵守について

質疑：実習施設で知り得た秘密について学生が守秘義務を遵守することについてはどう
か。

応答：事前指導を徹底し、実習中も巡回・カンファレンスで常に触れている。事後指導
にも努めている。

評価項目（12）社会貢献・地域貢献について

意見：介護・保育・医療に関するノウハウを家庭における介護・保育・リハビリについ
て公開講座や介護相談をしてほしい。